

「さつまいもものテーマパーク」

として活用



〈旧大和第三小学校〉

施設の概要

なめがたファーマーズスイレツジは、特産物「さつまいも」をテーマに、学校跡地に加工工場、ミュージアム、レストランを設置。さらに周辺に、オーナー専用貸農園、クラブハウス、直営農場、さつまいも貯蔵庫などを併設し、農業のテーマパークとして運営している。

廃校活用までの経緯

これまで白ハト食品工業(株)は、「JAなめがたから納品された「さつまいも」を関西や九州で加工し、全国で販売していた。同社は輸送コスト等も軽減できることから、行方市への工場進出が進められていた。統廃合後の学校跡地の利用を検討していた本市がこれに加わり、工場に限定しない「農業をステキにする」テーマパーク構想が進められた。

学校跡地は、地元の長年の思いが多く残るもの。地域住民の理解を求め、市が中心となって説明会を開催した。こうして「行方市の農業活性化ビジョン」に住民の賛同も得られて、食品会社へ売却された。本市における22校の小中学校を7校にする大規模な学校統廃合事業の跡地利用の好事例となっている。



さつまいもスイーツや地元野菜を販売する商業棟、ミュージアム棟、工場棟など。

（株）なめがたしろはとファーム

業種	食品加工, 飲食
用途	農業テーマパーク
建築年月日	昭和58年4月
規模	20, 853㎡
運営開始時期	平成27年10月30日
改修費用	約22億円



現在も、校門跡には、「行方市立大和第三小学校」の校銘板が残されている。

廃校を活用するメリット

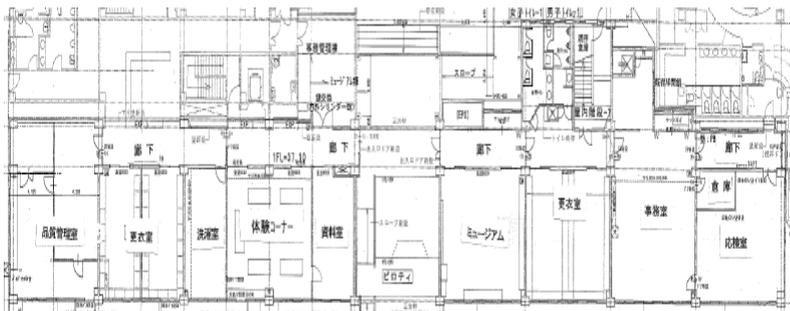
メリッ

学校施設を残し活用することで、他施設との差別化が図られる。校門の校銘板は「行方市立大和第三小学校」、校長室には、歴史を物語る資料等が残る。さつまいもの知識が学べるミュージアムは、教室の雰囲気そのまま残り、校庭の遊具や桜は、家族やグループで楽しめる空間となっている。卒業生には、廃校とはなったが自慢できる学校に生まれ変わった。

活用した補助制度

6次産業化推進事業

(農林水産省)



教室は、ミュージアムスペースや体験コーナー、事務室などに使用されている。

自治体の声： 新たな農業のビジネスモデルの構築、さらなる6次産業化の促進によって「日本の農業をステキにする」の実現に期待する。あわせて、成田空港、茨城空港などから近いことから、インバウンドビジネスを推進する。

茨城県 行方市

製材所&バイオマス発電所

として活用

施設の概要

半径50km圏内の森林資源を全量受入れし、製材やバイオマス発電へ利用。また、ボイラーで生成した熱エネルギーを工業・農業・水産業へ活用する等、「エネルギーの地産地消」を目指した事業を展開している。他にも、森林整備と地域経済の活性化を目的とした『木の駅プロジェクトながわ』の拠点として、日々近隣住民の軽トラックが出入りしている。

廃校活用までの経緯

八溝山系の山林に囲まれた馬頭東中学校は人口減少の煽りを受け、平成20年に閉校。ほとんど利用されなくなった廃校に、(株)トーセンから「製材工場とバイオマス発電所」を設立する計画が提案された。那珂川町は新規雇用の創出や、林業を通じた町おこしに期待して、(株)トーセンの誘致を決定。設立工事や試運転を経て、平成24年に製材工場が運転を開始。その後バイオマス発電も運転開始となった。同社は東北木材協同組合と連携し、校舎の教室を「林業教室」として活用したり、別の教室には巨大な「生けす」を設置し、ボイラーの余熱を利用したウナギの養殖にも成功している。工場設立に成功し、近隣住民への説明会が行われた。もともと林業が盛んだった地域のため、住民からの理解を得やすかった。運営開始後も、広報誌を毎年2回発行。

〈旧馬頭東中学校〉

校舎内の教室は、工場内関連会社の事務所やウナギの養殖に使用。(中央写真最奥) 屋外運動場に製材工場と発電所、余熱利用のマンゴー栽培ハウスなどが建てられている。場内で作られた木質チップをボイラーで燃焼し、そのエネルギーをさまざまに変換・活用している。(最左列写真4枚)



(株)トーセン グループ
東北木材協同組合 那珂川工場
(株)那珂川バイオマス

業種	製材業、発電所
用途	工場
建築年月日	昭和56年3月
規模	約31,714㎡
運営開始時期	平成24年4月
改修費用	約21億円

事業経過や設備点検の報告など、住民との信頼関係をより強固にすべく、企業努力が図られている。



学校だよりに因んだ広報誌「東雲通信」

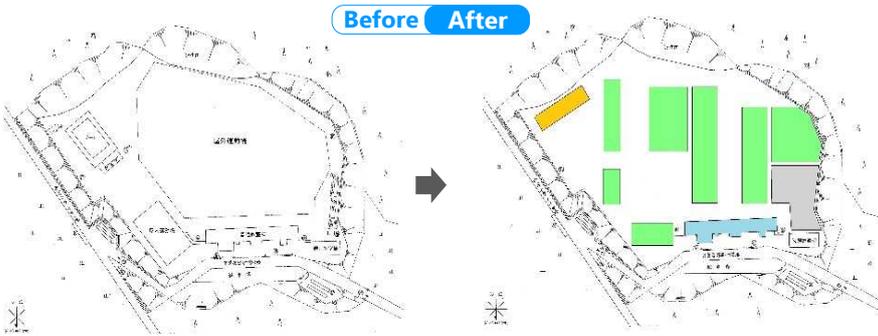
廃校を活用するメリット

事務所やトイレなどは、ほとんど改修をせずに使用。教室は一定の広さが確保されており、大型でさまざまな種類の製材設備やバイオマス発電設備等はグラウンドに設置。区切られた環境、広い敷地、設備に心掛けて使い勝手のいい環境が備わっていたといえる。

また旧馬頭東中の場合、小高い丘に位置しているため、住民からの騒音等の苦情はほとんどない。屋内外ともに、大きな空間が確保されているのが「廃校」ならではの特徴であり、その特徴をフル活用している。

活用した補助制度

林業木材産業構造改革特任事業 (林野庁)



旧馬頭東中学校の配置図と現在の那珂川工場の配置(略式)。
■:製材 ■:マンゴー栽培 ■:発電所 ■:事務所兼ウナギ養殖

那珂川町

栃木県那須郡

自治体の声： 廃校となった東中が、今度は製材とバイオマス発電によって再び地元を活気づけてくれています。町の商店街からは「木の駅プロジェクトのおかげで10何年振りにテレビが売れた！」と喜びの声も。“小さな町村が真似できる”発電と熱利用のモデルとして、全国から視察が絶えません。廃校活用をはじめ、地方創生の更なる前進に那珂川町も努めてまいります。

地域コミュニティ施設

として活用

合同会社WOULD



〈旧長尾小学校〉

施設の概要

木造平屋建ての教室棟を貸しオフィスや簡易宿泊所、飲食スペースなどに改修、トイレやシャワールームも完備し、校庭では小屋付き市民農園を整備するなど、廃校を新たな交流の場「シラハマ校舎」として地域活性化に取り組んでいる。

廃校活用までの経緯

平成23年に学校統合により閉校となった旧長尾小学校は、閉校後3年にわたって活用方法について決まらない状況が続いていた。市が活用事業者の公募を行ったところ南房総エリアに人の流れをつくりたいと考えていた南房総市と合同会社WOULDの事業提案内容が一致し、活用が決定した。



現在の外観

業種	飲食、不動産
用途	地域コミュニティ施設
建築年月日	昭和27年
規模	約1,250㎡
運営開始時期	平成28年9月1日
改修費用	約4,500万円

廃校を活用するメリット

廃校を活用していることにより、メディアに取り上げられる機会が多くなり、広くPRできることや、改修せずそのまま使える箇所も多いため初期投資が抑えられ、その分設備投資に力を入れられた。

また、小学校という地域コミュニティの中心を再生させることにより、新たな地域コミュニティの創造につながります。

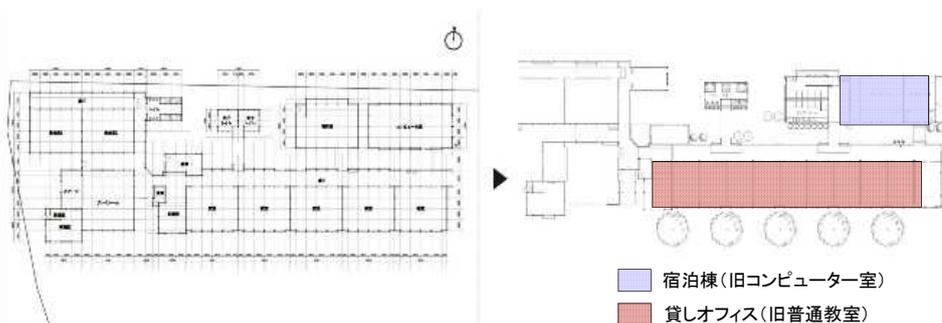


旧普通教室を貸しオフィスとして賃貸



元コンピューター室を宿泊棟にリノベーション

Before After



自治体の声： 移住や起業したい方にとって、南房総は東京圏からの距離が同じくらいの他の地域と比べると「宝の山」です。まだ開発されていない地域だからこそ、可能性は無限大。まずは都会と田舎の二地域居住から始めてみることをお勧めします。

千葉県 南房総市

総合エンタテイメント事務所

として活用

吉本興業(株)

施設の概要

吉本興業(株)東京本部の事務所として活用。区と地元商店街振興組合、町会、民間企業、警察や消防等の関係行政機関、NPO、ボランティア等が一体となって推進する「歌舞伎町を誰もが安心して楽しめるまちに再生する」ための取り組みである「歌舞伎町ルネッサンス」に大きく寄与している。

廃校活用までの経緯

歌舞伎町ルネッサンス推進協議会において、旧四谷第五小学校施設の地域活性化への活用が地元商店街振興組合理事長から同推進協議会会長(新宿区長)へ要望が出され、歌舞伎町再生の担い手となる事業者を誘致することとなり、吉本興業(株)の提案があった。これを受けて区としても貸付条件に適合し、歌舞伎町地域の活性化に資すると判断し、吉本興業(株)東京本部の事務所等として活用することとなった。

昭和8年度に建てられた校舎は、吉本興業(株)が改修工事を実施したが、工事内容等について吉本興業(株)と新宿区の両社で協議を行うこと

〈旧四谷第五小学校〉



ゴールデン街側に開かれているエントランス。

学校は、地域のシンボルでもある。校舎をそのまま活用することは地域の歴史を残すことであり、卒業生や地域の住民にとって、まちへの愛着や誇りを醸成することにもつながる。

また吉本興業(株)からは協定に基づく歌舞伎町ルネッサンス事業に限らず、新宿産業観光フェアや若者のつどいなど新宿区のままさまざまな事業への協力を得ており、新宿のまちの魅力の向上に大いに貢献している。

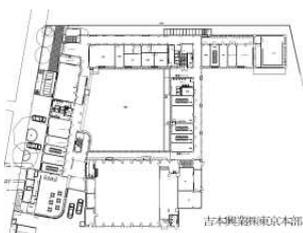
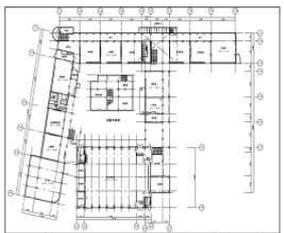
廃校を活用するメリット



以前は工作室だったスペースを受付ロビーとして活用。

とが少なからずあった。また、校舎貸付当時、屋内運動場は区が書庫として使用していたため、屋内運動場の貸付期日や区の撤去工事等について、調整を何度も重ねた。

業種	総合エンタテイメント
用途	事務所等
建築年月日	昭和9年3月1日
規模	5,305㎡
運営開始時期	平成19年度
改修費用	約9億円



Before After

中庭を囲む1階。会議室を中心としたパブリックなスペースとなっている。



最小限の改修で、外観にはほとんど手を加えていない。

東京都 新宿区

自治体の声：貸付時に「歌舞伎町ルネッサンス事業」への協力の協定を結んだことで、さまざまな形で地域に貢献している。また、改修を最小限にしたことにより、地域の人々になじみの深いものであった小学校の建物を残すことができた。

高速道路工事請負業者の

事務所および寄宿舍

として活用

東急建設(株)

施設の概要

新東名高速道路工事に伴う請負業者の事務所および寄宿舍として利用。教室を間仕切り、作業員の個室を設け、そのほかに浴室、厨房などの整備が行われた。地元との連絡を密にするため請負業者は自治会に加入し、地域振興に積極的に取り組んでいる。

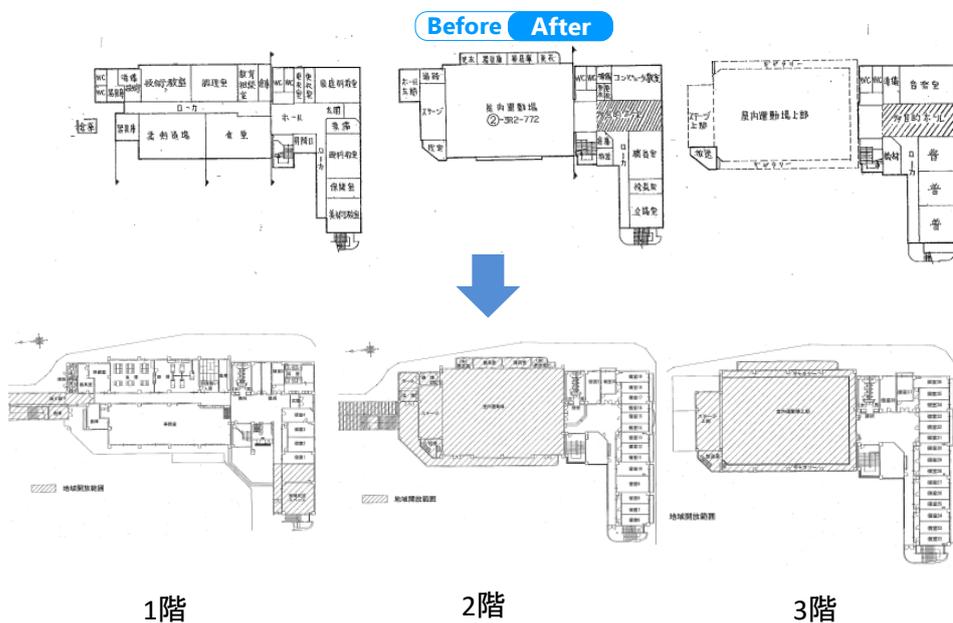
廃校活用までの経緯

中学校の統廃合により、廃校となった校舎について、東急建設(株)から町に対し、有償で貸与してほしいという申し出があり、庁内にて検討後、地元説明会を開催、了承を得て貸与が決定した。事務所および寄宿舍として整備が行われた。新東名高速道路工事は一時的なものではあるが、寄宿舍として整備されれば、請負業者の撤退後も施設の活用に期待が持てると地元でも期待している。また人の出入りが増えることで地元商店などの活性化や新たな雇用の発生が期待できるとして、地域の賛同を得ることができた。

廃校を活用する

メリット

新東名高速道路のトンネル工事ということで、作業員の人数も多くなるため、学校施設のような大きな建物を利用することにより、収容人員が多くなり、同時に事務所も同じ建物内に設置できるなど、すべてをまとめることができる。



業種	建設業
用途	事務所、寄宿舍
建築年月日	昭和62年9月
規模	1,985m ²
運営開始時期	平成28年7月1日
改修費用	約1億円



ランチルームと柔剣道場だった部分は現場事務所に。



作業員用の個室の内装。



1つの教室に3つの個室を設置。

神奈川県

山北町

自治体の声：用途が決まっていない施設に対し、有償で貸与してほしいという申し出があり、町としては、その収入を今後の学校施設整備の財源にできることや、寄宿舍等の管理業務や厨房業務等に山北町の住民を採用してもらうなど町内の雇用促進への期待もある。

トナー・インクカートリッジの

再生工場として活用



〈旧菅谷小学校〉

施設の概要

エネックス㈱（本社：福井市）の加賀工場として、主にプリンタ用トナー・インクカートリッジのリサイクル製品および化粧品素材の開発・製造を行う。校舎、体育館を工場や倉庫として活用するほか、グラウンド部分に新工場や社員向け福利厚生施設を新築する予定。

また、工場緑地（敷地の一部）は、地区住民の災害発生時指定緊急避難場所となっている。

廃校活用までの経緯

菅谷小学校は、地区人口の減少を背景に、児童数が減少し、平成27年3月をもって近隣小学校に統合され閉校となった。

跡地活用については、地区住民で組織した検討委員会で議論を重ねていた中、市が進めていた企業誘致による地域の活性化を地区住民に提案した。

提案に対しては、校舎建設当時に敷地を提供したことや愛着ある学校を民間企業に売却することへの住民の複雑な感情もあったことから、市と進出企業が協力し、住民向け説明会や本社工場の見学会などを積極的に実施した。

その中で、雇用の創出や地域の活性化につながることを丁寧に伝え、地区住民の賛同を得るに至った。

エネックス ㈱

業種	製造業
用途	工場、事務所
建築年月日	昭和54年12月
規模	3,025㎡
運営開始時期	平成28年12月
改修費用	約4億円 (既存建物のみ)



学校の記念碑や銅像は工場正面に移設

廃校を活用するメリット

過疎化が進む地域において、企業が廃校を取得し、大規模な工場へ再生することは全国的にも珍しく、大きな話題になるとともに、地域活性化方策の一つのモデルとなる。

進出するエネックス㈱にとっても、廃校をリノベーションし新たな工場に活用することは、リサイクル製品を開発・製造する会社の環境方針である「循環型社会の構築」にも貢献するものである。



当初は、再生インクカートリッジ月産40,000個、従業員約20人で操業を開始。将来的には、グラウンドに再生トナー事業と化粧品事業の工場を新設し、従業員100人規模を予定。

自治体の声： エネックス㈱の梅田社長は、菅谷小学校卒業生ということもあり、過疎化が進む地域に貢献したいとの思いを強く持っていた。今回、廃校を活用した工場進出により、新たな人や物の流れが生まれ、地域の活性化につながることを大いに期待しています。

石川県 加賀市

天空のドローン技術研究所

として活用

サイトテック(株)

施設の概要

ドローンの開発、製造等を行うサイトテック(株)の施設として活用。住宅地からほど遠い、高台に立地しているため、飛行試験の際の安全や騒音被害等の心配がない。今後は、開発、製造、検査、研修等、拠点施設としてさらに幅広く活用する予定。



<旧中富中学校>

廃校活用までの経緯

サイトテック(株)が、ドローンのテストフライトをするため、学校の体育館を利用したことがあり、その際に学校施設が事業の展開に最適な場所であることがわかった。平成28年3月に同社の代表取締役の母校である中富中学校が閉校することになることを受け、同社から利用の希望があり、実現した。町でも閉校後の施設の活用に向けた検討を行っており、賃貸借により同年8月から稼働することになった。



業種	製造業
用途	検査、点検、運搬
建築年月日	昭和48年3月31日
規模	1,996m ²
運営開始時期	平成28年8月1日
改修費用	約100万円

廃校を活用するメリット

安全に機体の安定性を判断する試験場として、無風状態の大型の室内空間は欠かせない環境である。その点、ドローンをテストフライトする環境として、体育館は格好の施設である。また、天井に設置された開閉式のバスケット用ゴールや、跳び箱等の備品類は、飛行試験の際に仮想障害物となるなど、重宝に活用できている。校舎、体育館だけでなく、学校の校庭ほどの広い敷地も、テストや研修に有効に活用している。



Before After

体育館の中では資材の搬入から設計・組立・配線・フライトテスト・出荷迄、一環して行っています。

自治体の声：平成28年～30年度の3か年で11校から4校へ学校統合を進めているが、閉校後の施設の利活用は大きな課題の一つとなっている。今回の企業の参入により、廃校施設のよりよい利活用の在り方と、町の将来の活力につながることを期待している。

山梨県 身延町

文化活動・健康増進

の支援として活用



〈旧小泉小学校〉

施設の概要

(株)ホリスティックホールディングスが体操教室など多彩な体験教室などを実施。旧校区内町民および旧小泉小学校卒業生の方々の胸深くに刻まれた懐かしい小学校の思い出を壊さないよう配慮するために、敷地および施設を極力温存し、かつ北杜市民が参加・利用できるプロジェクトを計画。

地元活性化を進めるため、地元の方々と一緒に各種イベントを計画し、円滑なコミュニケーションの地域創りを目指している。

廃校活用までの経緯

統合により廃校となった小泉小学校の施設について、市がその利活用の一般公募を行った。小泉小学校の卒業生であった(株)ホリスティックホールディングスの社長が興味を示し、教育・文化の発信拠点としての活動が提案され、市として無償貸与することを決定した。

同社は、医薬品・医療機器の製造・販売や医療施設の運営を手がけている企業であるが、「ハケ岳文化村」を設立し、地元の雇用を創りながら、地域に密着した事業



地元を舞台とした、ドラマ・映画の撮影や制作

(株)ホリスティックホールディングス

業種	イベント等
用途	集会場等
建築年月日	昭和54年2月
規模	5,420㎡
運営開始時期	平成27年2月1日
改修費用	約900万円

展開を計画している点が地元区長役員等、市副市長・幹部等で構成される選定委員に評価された。



タレント犬等の調教・訓練

廃校を活用するメリット

学校独特の空間、スペースが多様なプロジェクトやイベントに適している。

●健康を維持するためのサービースとして、将来の「健康産業」を考える空間、スペースが学校機能をもった場所は最適である。

●各教室では、多様なイベント開催が開ける。(3カ教室、料理教室、保健相談室、健康増進講習、美術品等の展示等)

●体育館では、体操教室や音楽会・演劇会・映画上映が開ける。

●グラウンドでは、タレント犬等の調教・訓練やドッグラン等が行える。

山梨県 北杜市

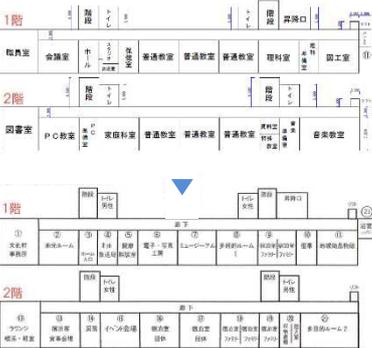


体操教室の開催



健康増進支援のための改修

Before After



自治体の声：ハケ岳文化村を立ち上げ、市内外者を問わずに多彩な体験教室や、地元をアピールした企画を立案してくれています。社長が旧小泉小学校卒業生ということもあり、地元への配慮も積極的であり、今後も教育・文化の発信拠点として更なる活動を期待しています。

農業用施設

として活用



〈旧泰阜北小学校〉

施設の概要

(株)又一ベルファーム泰阜は、旧泰阜北小学校のグラウンド・体育館で、春から夏は低段密植のトマト栽培、冬は市田柿の加工所として活用している。

また、村内の遊休農地を整備し柿を植えることにより、農地への復旧と、村内での原料柿の確保に取り組んでいる。新しい技術によるトマトの効率的な栽培と、地域を代表とする農産加工品である市田柿の生産を通じて村内に新しい雇用の場の確保と農業の復権、それらを通じた地域振興を目的としている。

廃校活用までの経緯

旧泰阜北小学校は平成22年4月の小学校統合により廃校となっていた。村では廃校の活用が進まない状況が続き苦慮していたが、平成25年に村内農家の仲介で、農産物生産により地域振興を図る企業から遊休農地と地域人材を活用した事業の提案があり、新たな農業振興を模索していた村との考えが一致したため、村が近



パイプハウスで栽培されている低段密植栽培トマト

(株)又一ベルファーム泰阜

業種	農業
用途	生産販売加工
建築年月日	昭和38年
規模	7,921㎡
運営開始時期	平成26年2月1日
改修費用	約16,000万円

隣企業等と共に出資し、平成26年2月に新たに(株)又一ベルファーム泰阜を設立し、グラウンドと体育館を村が貸与している。



冬の体育館での市田柿加工。

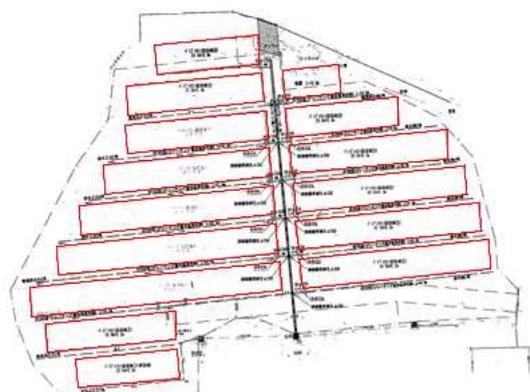
廃校を活用するメリット

廃校となっている小学校のグラウンド・体育館を活用することにより、造成費用や施設の建設費用を最小限に抑えることができる。また、地域に密着した事業展開をする際に地域の理解が得られ易く、学校施設の再利用という形で地域貢献ができる。

活用した補助制度

地方創生加速化交付金

(総務省)



2年間かけ、グラウンドに14棟のパイプハウスを建設。



長野県

泰阜村

自治体の声：廃校の有効利用、Uターン者の就農希望者等の雇用創出に効果が期待できる。

米粉を活用した 食品加工施設として活用

(有)レイク・ルース

施設の概要

村内で収穫したお米を100%使用した、米粉の麺を生産加工する工場として活用。耕作地が限定される白川村において、唯一安定供給ができる食材であるお米を活用することで、農家の経営安定化と6次産業化さらには村の特産品不足の解消および雇用の場の創出につながっている。

廃校活用までの経緯

平成23年3月に廃校となった学校の利活用について、地元有識者と行政が一体となった、旧学校検討委員会により協議を実施。同委員会は、地域活性化のためには、雇用の場の拡大につながる、企業誘致に活用することを提言。この提言を受け、雇用の場の拡大、農家の経営安定化、6次産業化の促進、特産品不足の解消につながる事業を実施することが可能なレイク・ルースとの誘致交渉を実施。当該企業は、岐阜県海津市において、米粉を活用した“米粉”の生産加工を行っており、本村の農産物事情との親和性も高いことから合意に至った。

〈旧白川小学校〉



既存廊下に仕切りを設置し、衛生管理を徹底。

業種	食品加工
用途	工場
建築年月日	昭和34年
規模	1,334.97㎡
運営開始時期	平成24年10月
改修費用	約4,500万円



用途によっては、教室内の黒板など既存の設備をそのまま使用。

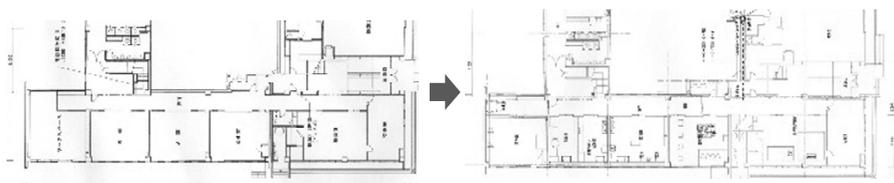
廃校を活用する メリット

行政側としては、数千万円の予算規模で取壊す予定の建物を有償で企業に譲渡し、雇用の場の拡大、農業振興、6次産業化の促進、特産品不足の解消につながる施設として活用され、費用対効果の大きな事業となった。
企業側としては、事業拡大に当たり初期投資が抑えられ、さらには学校の間取りが、製造過程ごとに教室を使い分けられることが可能なため、使い勝手が良く、稼働率の高い工場を得ることができた。

活用した補助制度

地域経済循環創造事業交付金
(総務省)

Before After



教室の配置が横一直線であるため、製造過程ごとに教室を使い分けられることができる。そのため既存の間取りをそのまま活かし、改修費用の低コスト化が実現した。

岐阜県
白川村

自治体の声： 地域住民と行政が一体となって活用方針を決定し、雇用の場の創出、農業振興、6次産業化、特産品不足の解消につながる、費用対効果の大きいプロジェクトとなった。誘致企業の成長とともに、地域の活性化が実現するよう、今後も支援をしていきたい。

健康食品工場の発信基地

手作りみそ工場として活用

(株)ナチュラルキッチン

施設の概要

廃校となった3階建の小学校をそのままの形で再利用し、1階職員室を梱包・出荷センターおよび事務所、2階理科室は「開発室」に、3階音楽室は「研究室」とした。
唯一改装したのは1階保健室で、手作り味噌工場へと生まれ変わりを、元教室の味噌蔵で出荷まで寝かされている。

卒業生や地域住民の思い出の場所を壊したくないという考えで、「大東小学校」の看板はそのまま残され、手作り味噌は「大東童謡味噌」と名付けられた。

廃校活用までの経緯

平成23年度、廃校となっていた大東小学校の利活用に関する提案を公募し、審査の結果、㈱ナチュラルキッチンに貸付が決まった。
もともと市内で健康食品を製造する工場を営んでいた会社であり、手作り味噌等の製造工場として施設を活用することで地産地消・地域活性化、雇用の創出に繋げ、伊豆市に寄与したいとの提案だった。



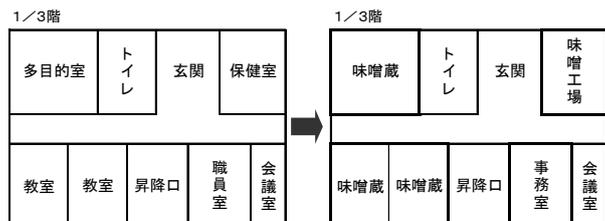
秘伝のレシピを用い、完全地産地消を目指す手作りみそ

食品製造業は、製造場所・保管庫・材料置場・資材置場等、さまざまなスペースを必要とするが、学校施設は教室ごとに区切られていることから、これらをつまぐ利用することで、大規模な改修を必要となく初期投資を抑えることができる。運送会社が大型トラックで材料等を搬入する際もグラウンドが広いので問題がない。
また地域の拠点としての色合いが強い施設であることからグラウンドを利用したバーベキュー大会や納涼会を開催し、地域の方々と交流を深めることで、会社の存在を広くアピールできている。その結果、会社の存在を知り就職したスタッフもいる。

廃校を活用するメリット



学区内地区の方々を招待してのバーベキュー大会



Before After

味噌製造に必要な改修工事により、保健室を手作り味噌工場に。教室は味噌蔵としてそのまま利用し、出荷まで味噌を寝かせている。



空いている教室を利用して障がい者が一般就労するための支援施設『陽だまり』も運営している

自治体の声： 廃校の有効な利活用を検討した結果、市内に工場がある㈱ナチュラルキッチンに貸付けすることになりました。地域との交流にも積極的に取り組んでいただいております。地域の活性化と雇用の創出につながっています。

静岡県 伊豆市

